



平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月2日

上場会社名 日本アンテナ株式会社
 コード番号 6930 URL <https://www.nippon-antenna.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 瀧澤 功一

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 清水 重三

TEL 03-3893-5221

四半期報告書提出予定日 平成30年8月3日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|-------|------|------|---|------|---|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 31年3月期第1四半期 | 3,436 | 28.1 | 56 | | 84 | | 92 | |
| 30年3月期第1四半期 | 2,681 | 2.5 | 327 | | 313 | | 327 | |

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 80百万円 (%) 30年3月期第1四半期 327百万円 (%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 31年3月期第1四半期 | 7.37 | |
| 30年3月期第1四半期 | 26.15 | |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 31年3月期第1四半期 | 23,517 | 19,525 | 83.0 |
| 30年3月期 | 24,093 | 19,868 | 82.5 |

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 19,525百万円 30年3月期 19,868百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年3月期 | | 0.00 | | 21.00 | 21.00 |
| 31年3月期 | | | | | |
| 31年3月期(予想) | | 0.00 | | 21.00 | 21.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|-----------|--------|-----|------|-------|------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 6,700 | 9.6 | 170 | | 180 | | 230 | | 18.39 |
| 通期 | 14,900 | 3.8 | 310 | 114.5 | 270 | 73.8 | 160 | 16.8 | 12.79 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 31年3月期1Q | 14,300,000 株 | 30年3月期 | 14,300,000 株 |
| 期末自己株式数 | 31年3月期1Q | 1,792,650 株 | 30年3月期 | 1,792,650 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 31年3月期1Q | 12,507,350 株 | 30年3月期1Q | 12,507,530 株 |

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成30年5月11日発表の連結業績予想の修正は行っていません。
2. 上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は市場の需要動向等様々な要因によって予想とは異なる結果となる可能性があります。
3. 業績予想の前提となる条件等については、[添付資料]2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 5 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 7 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 7 |
| (追加情報) | 7 |
| (セグメント情報等) | 7 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、緩やかな回復基調で推移しましたが、米中間の貿易摩擦や中東の地政学的リスク等が今後の景気の下振れ要因として懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当業界において、テレビ関連機器販売の市場に関しましては、4Kテレビや有機ELテレビ等の高付加価値製品の需要の高まりに牽引され、持ち直しの動きを見せておりますが、全体としては、本格的な需要の回復には至っておりません。また、新設住宅着工戸数につきましても、おおむね横ばいで推移しており、工事市場に関しましては依然として厳しい事業環境が続いております。

一方で、通信関連機器につきましては、官需向けは前年同期並みであります。民需向けは好調に推移しております。

このような状況の中、当社グループは、環境に左右されない経営基盤作りに取り組み、収益性に重点をおいた企業活動の推進や、新製品の開発、コストダウンへの継続的取組、業務の効率化による経費の適正な運営等に努めてまいりました。

この結果、テレビ関連機器販売や関連工事において、市場動向が弱含みである中、拡販に注力したことや、通信関連機器の販売において、通信事業者向け機器販売が好調であったこと等が奏功し、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,436百万円（前年同期比28.1%増）となり、営業損失は56百万円（前年同期は327百万円の営業損失）、経常損失は84百万円（前年同期は313百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は92百万円（前年同期は327百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(送受信用製品製造事業)

当事業部門において、放送関連機器の売上高につきましては、家庭用機器の販売が伸び悩みましたが、事業者向けの機器販売が好調であったことから、前年同期比増となりました。

通信用アンテナの売上高につきましては、官需向けデジタル無線用アンテナは前年同期並みで推移しましたが、通信事業者向け基地局アンテナが好調に推移したため、前年同期比増となりました。

この結果、売上高は2,976百万円（前年同期比31.3%増）、営業利益は163百万円（前年同期は124百万円の営業損失）となりました。

(工事事業)

当事業部門におきましては、電気工事が前年同期比で減少しましたが、新築ビル内共聴工事やアンテナ対策工事が堅調であったこと等から、売上高は460百万円（前年同期比10.7%増）、営業損失は10百万円（前年同期は4百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、商品及び製品の増加や、受取手形及び売掛金や現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末比575百万円減の23,517百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金の増加や、工事未払金の減少等により、前連結会計年度末比232百万円減の3,992百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当の支払等により、前連結会計年度末比342百万円減の19,525百万円となりました。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末82.5%から83.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想は、現在入手可能な情報と、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づいており、実際の業績は見通しと大きく異なることがあり得ます。

その要因の主なものは、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場動向、為替相場の変動等であります。

なお、平成30年5月11日に公表した平成31年3月期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 11,522 | 11,049 |
| 受取手形及び売掛金 | 4,881 | 4,225 |
| 有価証券 | 280 | 277 |
| 商品及び製品 | 1,443 | 1,709 |
| 仕掛品 | 28 | 36 |
| 原材料及び貯蔵品 | 385 | 625 |
| 未成工事支出金 | 69 | 79 |
| その他 | 504 | 479 |
| 貸倒引当金 | △0 | △0 |
| 流動資産合計 | 19,117 | 18,482 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 5,068 | 5,074 |
| 減価償却累計額 | △3,412 | △3,435 |
| 建物及び構築物(純額) | 1,656 | 1,638 |
| 機械装置及び運搬具 | 1,107 | 1,115 |
| 減価償却累計額 | △1,085 | △1,087 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 21 | 27 |
| 工具、器具及び備品 | 2,353 | 2,402 |
| 減価償却累計額 | △2,191 | △2,213 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 161 | 189 |
| 土地 | 1,115 | 1,115 |
| リース資産 | 116 | 116 |
| 減価償却累計額 | △71 | △76 |
| リース資産(純額) | 44 | 39 |
| 建設仮勘定 | — | 18 |
| 有形固定資産合計 | 2,999 | 3,028 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 78 | 72 |
| リース資産 | 0 | 0 |
| 電話加入権 | 22 | 22 |
| 無形固定資産合計 | 100 | 94 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,078 | 1,101 |
| 繰延税金資産 | 5 | 17 |
| その他 | 791 | 793 |
| 貸倒引当金 | △0 | △0 |
| 投資その他の資産合計 | 1,875 | 1,912 |
| 固定資産合計 | 4,975 | 5,034 |
| 資産合計 | 24,093 | 23,517 |

(単位:百万円)

| | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 1,779 | 1,957 |
| 工事未払金 | 261 | 112 |
| 未払費用 | 212 | 180 |
| リース債務 | 20 | 19 |
| 未払法人税等 | 80 | 35 |
| 賞与引当金 | 222 | 153 |
| その他 | 650 | 537 |
| 流動負債合計 | 3,227 | 2,996 |
| 固定負債 | | |
| リース債務 | 26 | 22 |
| 退職給付に係る負債 | 879 | 873 |
| 長期未払金 | 80 | 80 |
| 繰延税金負債 | 2 | 12 |
| その他 | 7 | 6 |
| 固定負債合計 | 996 | 995 |
| 負債合計 | 4,224 | 3,992 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,673 | 4,673 |
| 資本剰余金 | 6,318 | 6,318 |
| 利益剰余金 | 9,812 | 9,457 |
| 自己株式 | △1,246 | △1,246 |
| 株主資本合計 | 19,558 | 19,203 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 258 | 275 |
| 為替換算調整勘定 | 46 | 41 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 4 | 4 |
| その他の包括利益累計額合計 | 309 | 321 |
| 純資産合計 | 19,868 | 19,525 |
| 負債純資産合計 | 24,093 | 23,517 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | | |
| 製品売上高 | 2,266 | 2,976 |
| 完成工事高 | 415 | 460 |
| 売上高合計 | 2,681 | 3,436 |
| 売上原価 | | |
| 製品売上原価 | 1,643 | 2,095 |
| 完成工事原価 | 297 | 327 |
| 売上原価合計 | 1,940 | 2,423 |
| 売上総利益 | 741 | 1,013 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,068 | 1,069 |
| 営業損失(△) | △327 | △56 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 2 | 3 |
| 受取配当金 | 9 | 9 |
| 有価証券評価益 | 4 | — |
| 貸倒引当金戻入額 | 0 | 0 |
| その他 | 14 | 2 |
| 営業外収益合計 | 30 | 16 |
| 営業外費用 | | |
| 売上割引 | 13 | 13 |
| 有価証券評価損 | — | 3 |
| 為替差損 | 2 | 25 |
| その他 | 1 | 1 |
| 営業外費用合計 | 17 | 44 |
| 経常損失(△) | △313 | △84 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | — |
| 特別利益合計 | 0 | — |
| 特別損失 | | |
| 固定資産処分損 | 0 | 1 |
| 投資有価証券評価損 | — | 3 |
| 特別損失合計 | 0 | 4 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △313 | △88 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 14 | 13 |
| 法人税等調整額 | △0 | △10 |
| 法人税等合計 | 13 | 3 |
| 四半期純損失(△) | △327 | △92 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △327 | △92 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純損失(△) | △327 | △92 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △8 | 17 |
| 為替換算調整勘定 | 7 | △5 |
| 退職給付に係る調整額 | △0 | 0 |
| その他の包括利益合計 | △0 | 11 |
| 四半期包括利益 | △327 | △80 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △327 | △80 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | — | — |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2 |
|-----------------------|----------------|-----|-------|--------------|----------------------------|
| | 送受信用 製品製造事業 | 工事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,266 | 415 | 2,681 | — | 2,681 |
| セグメント間の内部売上高又は 振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 2,266 | 415 | 2,681 | — | 2,681 |
| セグメント損失(△) | △124 | △4 | △129 | △198 | △327 |

(注) 1. セグメント損失の調整額は、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2 |
|-----------------------|----------------|-----|-------|--------------|----------------------------|
| | 送受信用 製品製造事業 | 工事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,976 | 460 | 3,436 | — | 3,436 |
| セグメント間の内部売上高又は 振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 2,976 | 460 | 3,436 | — | 3,436 |
| セグメント利益又は損失(△) | 163 | △10 | 152 | △209 | △56 |

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。